

伊豆市 第1期こども計画

概要版



令和7年3月 伊豆市

計画の策定にあたって



① こども計画について

伊豆市では、平成26年度に「伊豆市子ども・子育て支援事業計画」、令和元年度に「伊豆市第2期子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。なお、出生数の想定以上の減少、教育・保育事業の利用者数の計画値からの乖離がみられたことから、令和4年度に中間見直しを行い、合わせて「伊豆市子どもの貧困対策推進計画」の性格を合わせた内容としています。

今回の策定にあたっては、これまでの「伊豆市子ども・子育て支援事業計画」だけではなく、伊豆市で育ったこども・若者が伊豆市で暮らして子どもを産み、地域に根付いていけるよう、幅広いこどもや若者、子育て家庭を対象に施策を拡大するため、新たに「伊豆市こども計画」を策定するものです。



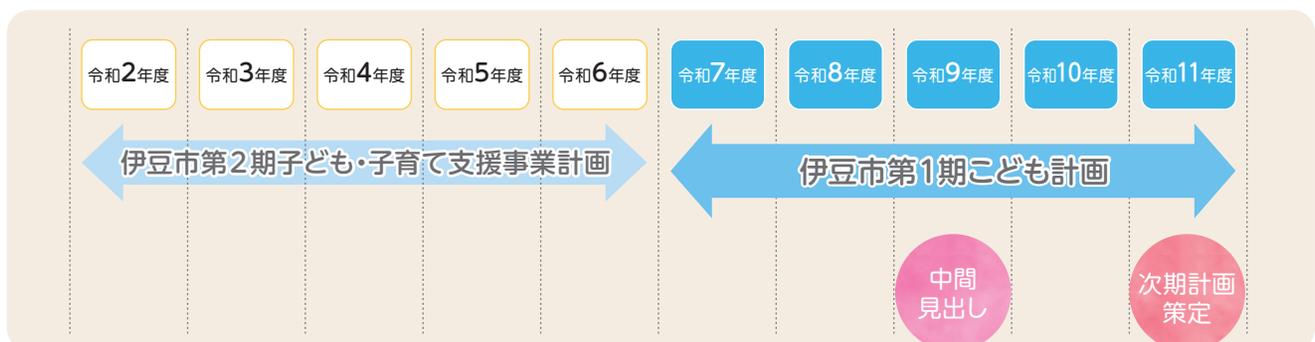
② 計画の期間

計画の期間は令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

なお、実施状況は毎年度評価・検証を行い、計画中間年度の令和9年度を目途に中間見直しを行うことを予定します。

さらに、令和11年度には、次期計画(第2期計画)の策定を行います。

● 計画の期間 ●





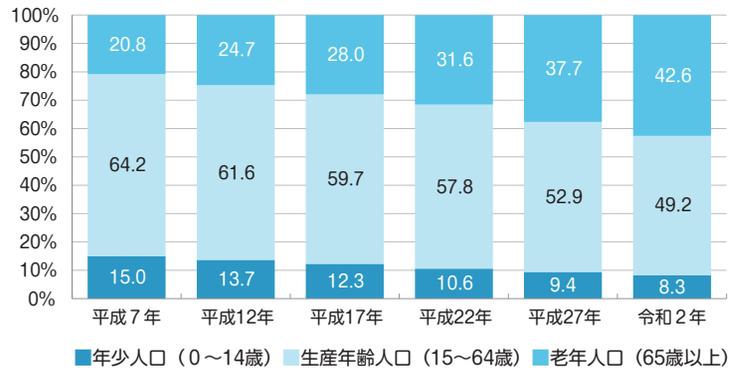
子ども・子育てを取り巻く状況

① 統計にみる伊豆市の現状

平成7年以降の年齢3区別の人口構成比(各年10月1日現在)は、高齢化の進行により老年人口の構成比が上昇しています。

年少人口の構成比は、平成7年以降低下傾向が続き、令和2年には8.3%となっています。

● 年齢3区分の人口構成比の推移 ●



出典：国勢調査

出生者数(各年1月1日~12月31日)は、平成27年までは140人台から160人台で推移してきましたが、平成28年に116人に減少した後は令和2年まで110人台から130人台で推移し、令和4年には87人となっています。

● 出生数の推移 ●

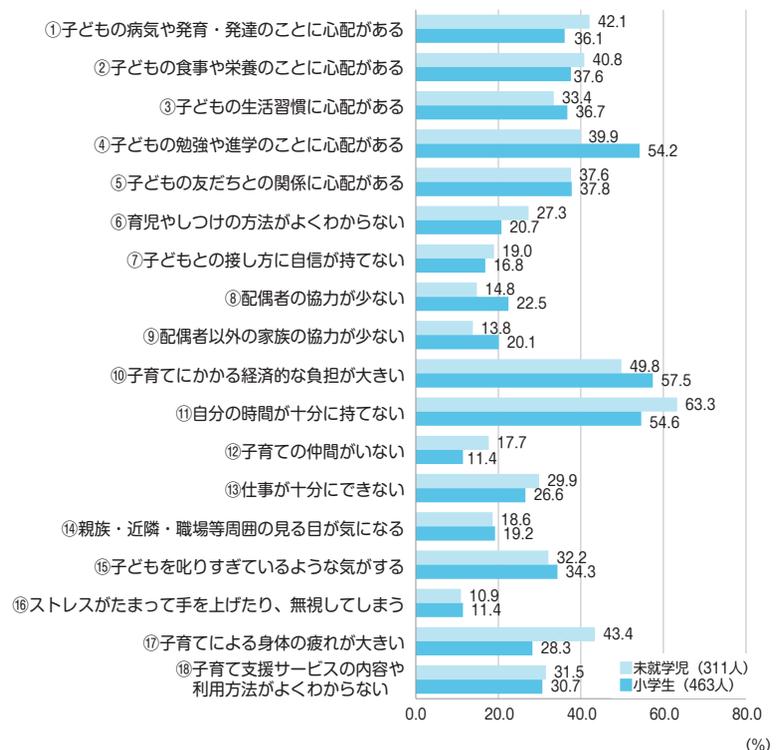


出典：人口動態統計

② ニーズ調査結果の分析(未就学児・小学生の保護者)

子育てに関して悩みや気にかかることは、未就学児では「⑪自分の時間が十分に持てない」、小学生では「⑩子育てにかかる経済的な負担が大きい」が最も高い割合となっています。

なお、「⑪自分の時間が十分に持てない」の割合は未就学児、小学生ともに50%を超えているほか、「⑩子育てにかかる経済的な負担が大きい」は未就学児でも49.8%と高い割合となっています。また、小学生では「④子どもの勉強や進学のことに関心がある」が54.2%となっており、これら3項目が大きな悩みとなっているとみられます。



こども・若者当事者からの意見



- ▶ **調査対象** 小学生から39歳までの市民または、市内に在勤、通学者
- ▶ **調査期間** 令和6年8月13日～令和6年8月31日
- ▶ **周知方法** 令和6年8月13日 市HP、市情報メールの配信、チラシ配布
- ▶ **調査方法** WEBページによる自由記述
- ▶ **回答者数** 53人

- ▶ 通学路、県道の歩道が狭い
- ▶ バス停の近くに横断歩道がない
- ▶ 夏が暑く、外で遊べない
- ▶ 子育て世帯向けに一戸建ての借家がほしい
- ▶ こどもがいると正社員になることが難しい など

- ▶ 伊豆市の出身者、市民が住んでよかったと思える街になってほしい
- ▶ 婚活の頻度を増やしてほしい
- ▶ 核家族に適した支援が必要
- ▶ 将来伊豆市に住みたい
- ▶ 結婚への魅力が感じられない など

困っていること

自分の将来のこと

伊豆市にこうなってほしいと思うこと

- ▶ 店舗や就労できる場が増えてほしい
- ▶ 小学生用の休日保育があると助かる
- ▶ 低年齢児だけではなく、中高生も支援してほしい
- ▶ こどもが遊べる公園・広場、公営のスポーツ施設がほしい
- ▶ 若者が伊豆市に戻って働けるようになってほしい など

今後、こども施策の検討・推進にあたり、該当する年齢層のこども・若者を対象に意見を収集し、反映できる仕組みを構築します。

市内で生活する外国に由来のあるこども・若者、病気や障がいのあるこども・若者の意見聴取については、それぞれの状況に応じた対応方法が必要なることが想定されるため、県内外の事例を研究しながら、効果的な意見聴取を図ります。

また、施策に反映した意見を公表し、さらなるこども・若者の社会参画・意見表明の促進につなげます。

子育て全力宣言伊豆市



伊豆市では、「子育て全力宣言伊豆市」を掲げて県内トップクラスの充実した子育て支援施策に取り組んでいます。

みんなで育てて
みんなで育つ

顔の見える
伴走型支援

こどもが
主役

すべてが
自然学校

など

計画の基本的な考え方



① 基本理念

伊豆市は、首都圏から適度な距離を保ち、市内には天城連山や狩野川があり、駿河湾に接しているなど、豊かな自然の中で子育てをできる環境があります。

その一方で、新幹線駅や救急救命センター、大規模商業施設・娯楽施設など、子育て世帯や若者を惹きつける高次都市機能の多くは市外に依存する状況が続いております。

このような特徴のある伊豆市において、市の特性に応じたこども・若者世代の総合的な施策を展開し、この地に生まれ育ち、社会人となり、家庭人となることに人生の幸せを感じられるまちづくりを目指すため、以下の基本理念を定めます。

基本理念

いずの自然とやさしさに包まれ
自分らしさを生かせるまち

② 基本目標

また、基本理念に基づき、4つの基本目標を設定します。

基本目標 1

若者が安心して生活し、
新しい家族を迎え、
こどもを育てられる
環境を整備します。

基本目標 3

周囲からの支援が
必要なこどもや
家庭への支援を
充実します。

基本目標 2

保護者の就労や
生活状況に合わせて、
必要な支援を
行います。

基本目標 4

妊娠・出産・子育て期を
通した切れ目ない
支援を充実します。

こども施策の展開

妊娠・出産から
幼児期まで

学童期・思春期

青年期

出産準備手当

妊娠22週を迎えた方に、妊婦健診・出産に関わる費用を支給します。

不妊・不育症治療費助成

不妊・不育症治療の医療費を助成します。

妊婦健康診査

妊婦と胎児の健康を守り、妊娠が順調であるかを確認するために継続的に委託医療機関や助産院で健診を行います。多胎の場合は5回追加されます。

コアラ教室(妊婦・両親)

安心安全な妊娠生活を送るためにヨガで体をほぐしたり、保健師・栄養士・助産師が指導・相談を行うとともに、妊婦同士の交流の場になるよう働きかけます。

産後ケア事業

出産後の心身のケアや育児の支援目的に医療機関や助産院、自宅において、親子のケアや、授乳指導・育児相談等を行います。

離乳食教室(4か月・7か月・11か月)

離乳食の進め方、アレルギー対策、バランスのよい食生活の大切さの理解を深めるとともに、管理栄養士、保健師、歯科衛生士が育児に関する相談を行います。

休日保育

子育てと仕事の両立支援の一環として、休日(日曜日・祝日)に保護者が仕事のため家庭で保育できないときに、修善寺東こども園と土肥こども園で保育を行います。

親子絆づくりプログラム

0歳のこどもや初めて子育てを行う母親を対象に仲間づくり育児不安の軽減等の機会を提供するため、仲間、絆、学びのプログラムを行います。

子育てママの居場所の創出

同じ年代のこどもを持つ保護者同士が気軽に集える場の創出に向けて、生きいきプラザを拠点とした仕組みづくりを目指します。

育児休業制度等の各種制度の普及啓発

育児・介護休業制度、育児・介護等を理由に退職した労働者を対象とする再雇用制度等の普及に向けて啓発します。

子育ておしゃべりサロン

日常の様々な悩みや不安を「おしゃべり」を通してやわらげます。

チャイルドシート等購入補助金交付事業

購入額に対して1万円を上限に補助金を交付します。

妊娠・出産から
幼児期まで

学童期・思春期

青年期

地域総合学習事業

各学校単位で地域の自然、人などへの関わりを体験し、地域に根ざした豊かな体験・交流活動を推進することにより、自分らしく工夫し表現できる児童・生徒を育成します。

放課後児童健全育成事業

保護者の就労等により日中にこどもの世話をできない家庭を対象に、授業の終了後等にこどもが過ごす場を提供し、健全な育成を図ります。

特別支援教育の推進

個別の支援が必要な児童生徒のために支援員を配置して、特別支援教育を進めます。

学校施設整備事業

より良い教育環境を確保するため、学校施設の整備を進めます。

多様な学びの機会の確保

先端技術や外国語教育など、時代の変化に合わせた教育の機会を設けます。

いじめ110番の設置

いじめや非行、不登校など、こどもの心と教育全般に関する相談窓口を開設します。

食育教室(児童・生徒・市内高校生)

学校や地域団体などと連携しこどもを対象とした料理教室等を開催し、望ましい食生活の確立や豊かな人間性を育むための食育を推進します。

伊豆っ子未来応援金

次代を担う伊豆市のこどもを育てる世帯を応援するとともに、移住定住につなげるため、こどもが小学校に入学した保護者に対し、応援金を支給します。

こども医療費助成事業

高校生相当年齢まで、保険適用分医療費を全額助成します。入院時食事療養費の自己負担額も市が助成します。

伊豆っ子サポーター

中学生以上の市民を対象に、地域の若きリーダーとしてふるさと学級や市子ども会事業の運営のサポートをするボランティアを育成します。

ふるさと学級事業

市内の小学4～6年生を対象に、ふるさとの自然や文化に触れる体験を行います。

地区の生涯学習支援助成

市内各地区の生涯学習活動のため助成金を支給するものです。祭りなどの開催時に利用されます。



妊娠・出産から
幼児期まで

学童期・思春期

青年期

出会いの機会の確保

県と市町が運営する「ふじのくに出会いサポートセンター」との連携など、独身男女の出会いの創出を確保します。

企業・創業の支援

市内で企業・創業を目指す市民を対象に、セミナーの開催、資金の助成など、関係機関と連携しながら必要な支援を行います。

サテライトオフィスを活用した企業誘致

伊豆市サテライトオフィスへの企業誘致を推進するとともに、入居事業者同士や市内事業者との交流・連携を促進し、新たな雇用の創出を図ります。

企業の誘致・留置

新たな企業の市内への立地を促すよう、必要な情報の提供、発信を行います。また、市内の企業が今後も継続できるよう、関係機関と連携しながら、可能な支援を行います。

子ども・子育て支援事業計画 新規事業



子ども・子育て支援事業計画として、新たに以下の事業に取り組みます。

子育て世帯訪問支援事業

訪問支援員が、家事・子育て等に対して不安・負担を抱えた子育て家庭、妊産婦、ヤングケアラー等がいる家庭の居宅を訪問し、家庭が抱える不安や悩みを傾聴するとともに、家事・子育て等の支援を実施することにより、家庭や養育環境を整え、虐待リスク等の高まりを未然に防ぐ事業です。

妊婦等包括相談支援事業

妊婦やその配偶者等を対象に、一人ひとりに寄り添いながら妊娠期から産後の育児期まで、継続的に面談等により情報提供や相談等(伴走型相談支援)を行う事業です。

乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)

保育所等に通っていない生後6か月から満3歳未満の子どもを対象に、毎月一定時間の範囲内で、保護者の就労の有無に関わらず時間単位で保育サービスを利用できる事業です。

産後ケア事業

産後の母親を対象に、安心して子育てに取り組めるように心身のケアや育児サポートを助産院や医療機関及び里帰り先の市と契約している助産院や医療機関で実施する事業です。

伊豆市 第1期こども計画 (概要版)

発行年月：令和7年3月

発行：伊豆市

〒410-2413 静岡県伊豆市小立野 38-2

電話：0558-72-9864 FAX：0558-72-1196

編集：伊豆市健康福祉部子育て支援課